

川崎病の病因および発症機序に関する免疫病理学的研究

(分担研究：川崎病の病因および発症機序に関する)
免疫病理学的研究

武村 民子

要約 川崎病の第17病日にA群溶連菌感染に罹患し第21病日目に化膿性腹膜炎で死亡した4ヶ月女児の一部検例における血管病変を電顕・酵素抗体法を用いて検討した。全身の微小血管に急性のperivascularitisが生じ、特に冠動脈には原疾患に由ると思われる内膜の肥厚に加えて外膜・中膜に新たな炎症過程が認められた。

見出し語：川崎病，剖検，A群溶連菌感染

研究目的・方法 川崎病の起因体については未だ確定した結論が出ていないが、我々は日赤医療センターで1979年に剖検された一例（川崎病の第17病日目に全身性A群溶連菌感染で死亡した4ヶ月女児例）の血管病変について電顕・酵素抗体法を用いて検索し、川崎病の病因追求の一助と

したい。

結果 表1に臨床経過の概要を示す。本症例はA群溶連菌による化膿性腹膜炎が直接死因であるが、全身諸臓器の小動脈および冠状動脈に初期の血管炎ともいうべきperivascularitisが認められた

表 1.

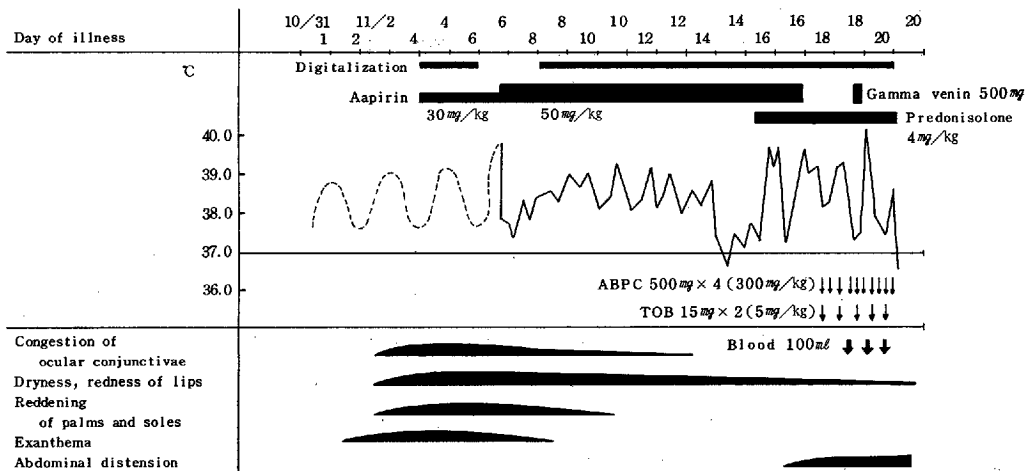


表2. Vasculitis

Organ	Order (μ)	Intima	Media	Adventitia
肝	100~200	Ed(+)	Ed(+)	Ed(+)
胆嚢	175	Ed(+)	Ed(+)	Ed(+)
脾	150			Ed(+) Mn(+)
副腎被膜	200~250	Ed(+)	Ed(+)	Ed(+)
腸間膜	500		Ed(+)	Ed(++)
空腸	150~200			Ed(+)
横行結腸 (漿膜下)	100			Ed(+) Mn(+)
S状結腸 (漿膜下)	50~150		Ed(+)	Ed(+) Mn(+)
頸リンパ節	50~100			Ed(++)
右冠動脈	1000	Th(+) Ed(+)	Ed(+)	Ed(+) Mn(+)
左冠動脈 (起始部)	2500	Th(+) Ire(+)	Ed(+) Dg(+)	Ed(+) Mn(+)
前下行枝	200~800	Th(+) Ire(+)	Ed(++) Dg(+)	Ed(++) Mn(+)
回旋枝	200~800	Th(+) Ed(+)	Ed(+) Dg(+)	Ed(++) Mn(+)

Ed, Edema

Mn, Mononuclear cell infiltration

Dg, Smooth muscle degeneration

Th, Fibrous thickening

Ire, Interruption of lamina elastica intima

(表2)。即ち、直径100~300 μ の細動脈の外膜、中膜の浮腫がみられ、殊に冠動脈においては外膜に単核細胞浸潤、中膜平滑筋細胞の好酸化が認められる。電顕では心筋内の細動脈に局所的に基底膜の疎解、ときに多層化、中膜平滑筋の外層から外膜にかけての浮腫性離開がみられる。A群溶連菌に対する抗体を用いた酵素抗体法では、大部分の血管病変に陽性所見は確認できなかったが、左冠動脈前下行枝の一箇所を外膜に浸潤するマクロファージ内に陽性像がみられた。

児例である。全身諸臓器の微小血管変化と原疾患に由来すると思われる内膜肥厚のある冠動脈起始部でも外膜に新たな炎症が生じており、これらがA群溶連菌に由る可能性が示唆され、しかも冠動脈には病変がより強いという特徴があった。

濱島⁽¹⁾は川崎病の初期血管病変は全身の微小血管炎であることを示したが、A群溶連菌感染においても同様の微小血管変化がみられたことは興味深い。

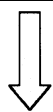
文 献

考察 本症例は川崎病の第17病日目にA群溶連菌感染に罹患し第21病日目に死亡した4ヶ月女

1) 濱島義博, 川崎病, 日病会誌, 66.59-62, 1977,

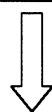
Abstract

An autopsy case of a 4-month-old female baby, confirmed as Kawasaki's disease and terminated in A group streptococcus sepsis on the 21st day of hospitalization, is presented. Acute perivasculitis occurred in microvasculature including venules and arterioles and also larger coronary arteries which revealed previous intimal thickening. Electron microscopy showed rarefaction and focal multilamellation of basement membrane of coronary arteries in the myocardium. Although immunoperoxidase method using anti-A group streptococcus did not demonstrate positive reaction on the affected blood vessels, acute vasculitis in terminal stage in this case may be due to certain component of A group streptococcus.



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要約 川崎病の第 17 病日に A 群溶連菌感染に罹患し第 21 病日目に化膿性腹膜炎で死亡した 4 ヶ月女児の一部検例における血管病変を電顕・酵素抗体法を用いて検討した。全身の微小血管に急性の perivascularitis が生じ、特に冠動脈には原疾患に由ると思われる内膜の肥厚に加えて外膜・中膜に新たな炎症過程が認められた。